

# パンシン『成長の儀式』のあら すじ

takaidos

## 成長の儀式

---

Rite of passage.

アレクセイ・パンシン(1940年～)。

1968年発行。28歳の時の作品。

深町真理子・訳。

1968年のネビュラ賞を獲得した長篇小説『成長の儀式』 *Rite of Passage* で知られている<sup>[1]</sup>。また、ロバート・A・ハインラインの熱烈な愛好家でもあると明言している。『成長の儀式』も変質したハインラインの作風に反発して書かれた。←やはりハインラインの小説は1950年とその後で違う。

『成長の儀式』

話し言葉で背景、様子が実感出来るようにわかりやすく表現されている。

マイアの性格や心の移り変わり表現秀逸。

エンターテイメント★★★★

冒険度★★★★

科学的★

社会科学★★★★

ファンタジー☆

1969年、『アンドロイドは電気羊の夢を見るか』などを抑えてネビュラ賞受賞。

<目次>

第一部 凍結を解かれる

第二部 わが世界の内部で

第三部 宇宙的教育

エピローグ 成長の儀式

解説・安田均

訳者あとがき

<登場人物>

マイア・ハヴァロー:主人公の女の子。黒髪。活発で人から指示された事をするのが嫌い。父親を始め周囲のものを俗物と見下す気質がある。惑星に住む人々は人間であるはずがないと考える。

サッカーが得意。2185年10月生まれ。総合学者希望。

マイルズ・ハヴァロー:数学者。評議会議長。マイアの父。地球年で50年連れ添った妻とは別居中。マイアと2人で暮らす。

マイア母親:レミュエル・カーペンティエ美術を習うとして別居中。

メアリ・カーペンティエ:マイアと親しい友人。

ヴェニー・モアロック:大柄でのろま。卑怯。フルバック。

ピーター・ファーマー:ファーマー夫人の息子。チビでのろま。ゴールキーパー。

クインス:ジオ区の学校の新しい先生。

ウィッカーシャム:マイアの新しい指導教官。

ジミー・ダントルモン:マイアのクラスメート。2185年11月8日生まれ。赤毛。分析学者希望。マイアよりチビ。優生学者の提案で母親と父親の婚姻関係がないまま産まれた。母親が別の男性と結婚すると寄宿舍に自ら入った。

ジョーゼフ・L・H・ムベル:マイア、ジミーの新しい指導教官。白髪。100歳を超える?元評議会議員。植民地に図書一式を配布することを提案しマイルズに反対され退職。社会哲学者。

パースソン:評議会議員。マクレディの問題。

ゼナ・アンドラス:11歳。しっぺゲームでマイアは恨みを買う。

ジョージ・フホーニン:船から惑星に降りる偵察艇のパイロット。大男。

ヘンリ・タブマン:マイルズの助手。

ジェンナ口:惑星グレイナウの役人。マイルズの知人。

ラルフ:14歳。ジェンナ口の長男。

ヘルガ:12歳。ジェンナ口の長女。

アリシア・マクレディ:非合法に優生学的に試験に耐えられない子を次々四人産み、植民惑星で失なったにも関わらず、またひとり身ごもった。宇宙船にもキャパの問題があり法的に認められない出産は許されなかった。評議会は墮ろさせるか植民惑星への追放を考えていたが、議論は全船の集会に移行されようとしている。

ジェローム博士:ヒゲ、小肥りの医師。マイアの主治医。

ミッチェル:救難部。

キースリー:技術部の老婆。

ミス・ブランキュージック:ジミーの寮母。

ピサロ:ニューダルマチア野外授業のマレシャルの助手。赤ひげ。

<生存試験の準備>

フォスナイト:試験の計画担当。

マレシャル:主任指導教官。

リギー・アレン:

アンダーソン:

ジミー:馬ペ。

デヴィッド・ファーマー:乗馬は得意。おっちょこちょい。虎退治で脚を骨折。

スチューハースコヴィッチ:

マイア:馬ニンコンプープ(とんま)。試験ではニンク。

ロバート・ブライニー:大柄。馬に蹴られて肋骨を折られる。

ウィルソン:

ユー:

ジャック・フェルナンデス=フラゴーソ:マイアと昼食係。

ソニヤ:

ソーロー:人生を田園生活のように過ごす。

ヴィシュア・マツール:

ビル・ニーマン:虎退治で肩に大怪我。

<生存試験訓練の仲間>第六層を探検。

マイア・ハヴァロー:

ジミー・ダントルモン:ジミー。電子工学。

ヴェニシア・モアロック:ヴェニー

リギー・アレン:おっちょこちょい

ヘレン・パク:金髪、黒目。

アッティラ・ツァボディ:アット。大きい。電子工学。

レイチェル・ユン:

<生存試験>惑星ティンテラ。

ローゼル:二足歩行、全身が緑色の毛。

ホルスト・ファンガー:現地人。

ジャック:ホルストの手下。

ダニエル・クツォフ:子供達に物語を話す老人。反救済主義者。マイアを匿う。

<あらすじ>

人口戦争。

2041年地球人口は80億人を超えて狭い住環境でお互いくしゃみ大声を出すのも遠慮し様々法律が

作られ、地球はやがて太陽系内の植民地とともに壊滅した。

人類は2025年に完成した巨人船団の最初の一隻を始めに8隻が就航。

小惑星を二つに割りくり抜いて作った巨大宇宙船。

そして16年の間に人類は恒星系の惑星上に112の植民地を作ったが、相当数が運営に失敗、7つは不都合な行動に出たため道徳的懲戒を受けた。

いま2205年に現存しているのは90。

植民船団ではその宇宙船のキャパと、植民惑星に対して優位な技術知識の維持のために、子供が14歳になると、惑星に降ろし30日間サバイバルの試練(生存試験)を受けさせ、生きて帰って来たら成人とする決まりがあった。

教育は20歳までで、そのあとは各自研究。

マイアが乗っている船の人口は3万人だった。

この話はマイアが12から14歳までの話。

船内の層。

第一層:技術区-機関、救難、操縦、変換などの各部門。

第二層:行政区。

第三層:土や丘陵、本物の土や草や砂、動物、雑草。サッカー場。

第四層:居住区。アルフィン区/寄宿舍。

第五層:居住区。植民者(泥食らい)、人としての権利を放棄したも同然。ジオ区。

第六層:廃棄された層。

2197年、マイア12歳は父マイルズと第四層アルフィン区から第五層ジオ区に引っ越す。

教室には男女2名ずついてティーチング・マシンで勉強。

新しい指導教官はムベル氏になり、ジミーと通うことになる。

校外教育の帰りに女子7人でしっぺを賭けたゲームをするが、マイアはゼナから恨みを買って孤立。

父マイルズはマイアを惑星植民地グレイナウに誘うがマイアは嫌がる。

第五層に行ってみるがみんなヴェニーに遠慮してさらに孤独感に包まれる。

第五層で通風孔の蓋を外しているとゼナが通りかかり、挑発してゼナも通風孔探検に巻き込む。

縦穴を見つけて上に上がり第六層を発見し、またジオ区に戻って来る。

怯えていたが探検をやりとげたゼナはマイアに「思っていたよりいい人ね」と行って帰る。

家に帰ったマイアは、惑星グレイナウに行ってみることにするとマイルズに告げる。

偵察艇に乗ると、マイルズより1フィートは高い大男のフホーニンがパイロットだった。

彼はマイアにおとぎ話を聞かせる。

1人は賢く、1人は魅力のある双生児の王子が王国を継ぐ権利を得るために鬼退治に行くという話だった。

グレイナウに到着してマイルズ、ジェンナロ、タブマンが馬で出かけると、マイアはラルフとヘルガと一緒に脱走する。

ラルフとヘルガは宇宙船に対して偏見を持っていた。

宇宙船の人間が惑星の住人に持っているそれと同じように。

初めて惑星に降りたマイアにとってお店も服屋も海も初めてだった。

ラルフとヘルガの誘導で小型ヨットに乗るが船酔いしてしまう。

さらにラルフから、マイルズたち宇宙船の人間はこの星からタングステン鉱を収集しているする取引に来ていることを聞かされる。

宇宙船の人間は技術・知識を持っていて、惑星植民地にはその知識を小出しにして採掘をさせているという。

ラルフは宇宙船の人間は寄生虫、欲張り豚といい、マイアは惑星の人間を泥食い(マッドイーター)と言い返し、ラルフはマイアを海に突き落とす。

栈橋に上がったマイアは今度はラルフを海に蹴り落とす。

ずぶ濡れになって偵察艇の方戻るとジョージと会う。

マイルズはジェンナロと子供達の喧嘩は取引には影響しないと話していた。

タブマンとマイアにマイルズは言う。

「植民地の利益のことを考えてあげる必要はない、自身で気をつけることを学びべきだ。ムベルは反対で植民地の利益のことを考えてあげようとする(宇宙船ある本を配布しようとしたのもその一環だった)」

「マイア、ムベル氏のこと見くびると大きな間違いを犯すことになる。彼の主義は立派だ。

ただ不幸なことはときどき方法はたった一つと思い込むことだけだ」

マイアは2198年6月3日に第三層で開かれる第一回生存訓練の招集を受け取り、寄宿舍にジミーを誘いに行く。

ムベル氏の下でマイアとジミーは、マイアが植民地たちは嫌な匂いがする、と言ったことを元に、人の行為と好悪の感情、人の悪口を言いふらすことによって自己の正当化を図ることの不利益について議論する。

話は非合法で子供を産んだアリシア・マクレディのことに及ぶ。

評議会から全船集会にマクレディへの裁決場が移動したが集会に出席する年齢達していないマイアとジミーにムベル氏はビデオで討論を観るようを進める。

そして正しい行為とは倫理だとして、ムベルは哲学・倫理学の本をいくつか挙げて準備が出来た

ら議論しようという。

(快樂主義、功利主義、ストア学派、力の哲学、人道主義派、宗教的倫理体系)

マイアは自分が口を開かなければ、こんな面倒なことにならなかったと後悔するが未だに不用意に口を開いてしまう。

第三層で生存試験の訓練が始まり、初日は馬の割当てと馬具の装着方法を習う。

マイアは訓練に冒険、劇的なものを感じなかったとジミーに言う。

ゼナが遊びに来て、いっしょにマクレディ問題の集会の実況中継を観る。

5番目の子を墮ろして船に残るか、植民惑星に子供ともに追放するか。

結果は追放だった。

馬もヘリパックも与えられないので死を意味するといってもいい。

ジミーは試験でグループになったマイアたちに宇宙船の外に出てみようと言い出す。

7人は第一層にあるドアの位置を確認し、技術部の奥にある救難部に置いてある宇宙服に目をつける。

しかしマイアは、宇宙船の外に出る事を心配し続ける。

宇宙船は、カウフマン-チェンバース不連続方程式によって、光の速さ(アインシュタインの障壁)を超えるスピードで航行しているのだった。

マイアとジミーがミッチェルに七宝焼きのバッジ作りを手伝ってもらっている間に、ヴェニー、アット、リギーは宇宙服を持ち出す。

昼食と称して、気こう室に集まるが、リギーは自分も出たくて先に出てしまっていた。

ジミーとマイアが後から出て、宇宙船本体の外に岩場を探すと嘔吐して動けなくなっているリギーを見つける。

リギーを引っ張ってまた船内に戻り、後片付けをしてジミーとマイアは宇宙服を持って救難部へ戻り途中でフホーニンに会い、全てが暴露してしまう。

ジミーとマイアはマイルズ、ミス・ブランキュージック、ムベル、ミッチェルの立会いで一ヶ月の謹慎となった。

マイア13歳になる。誕生日の思い出。

ニューダルマチア。

マレシャルと助手ピサロに率いられた31名に三日間の野外授業。

マイアは野外授業の合間に、ムベロ氏にレポートする倫理学をまとめる。

功利主義、ストア学派(倫理)、力の哲学(目的のために何でも遂行)...

15人ずつ2チーむ、マレシャル組とピサロ組に分かれて、各60本の丸太を切り出して、丸太小屋を

作る。

最終日は川を渡渉して、崖の上からロープを降ろして降りる。

12月になってニューダルマチアから試験のメンバーが戻ってきたが、42名中7名は回収の合図が無く戻って来ることが出来なかった。

マイアは家にグループ6人など集めて歳末のパーティを企画する。

図書室で調べてみたら、マイアには兄がいたことを知り驚く。

ジョー(ホセ)。マイアより40歳上で15年前に不慮の事故で亡くなっていた。

小説以外は自分より有能そうだった。

母親とうまく行かない原因はそ兄の容貌に自分が似ていることにありそうだった。

倫理の課題発表でムベル氏の家でジミーの話を聞いていたマイアは2人の志向の違いに気づく。

総合学者志望のマイアと分析学者志望のジミーがそれぞれ全く逆の志向の発表をしていたのだ。

ジミーは創造的、マイアは批評的だったのだ。

そして2人はお互いに志望を変更することにする。

14歳の誕生日直前にマイアの泥食らい差別発言に対してムベルは苦言を呈し、ジミーも反論して大喧嘩となる。マイアは山の間のパックもジミーに返してしまう。

試験で協力するつもりだったがご破算となる。

偵察艇で惑星ティンテラに一人ずつ離れて降ろされる。

マイアは森の中を馬のニンクに乗って進み、緑色の二足歩行の動物ローゼルに会う。

その後、ローゼルを引き連れた5人の男たちに会って、ミッドランドに連れて行かれそうになるが音波ピストルで脅して事無きを得る。

しかしマイアはやがてミッドランドの街に至る。

子供達が集団で遊び、夫婦が8人の自分たちの子供達たちを連れて歩いているのを見て驚く。

自由産児主義。

宇宙船では動物のように子供を産み増やしては破綻してしまうが、ここではそうではなかった。

キャンプ場で一休みしていたら、ホルストたちが来たので急いで立ち去ろうとしたが、捕まってしまう。回収信号機も壊され、持ち物も武器も全て奪われてしまう。

殴られて気を失ない気がつくクツオフ老人の家だった。

老人はマイアに現地語を教える。

そしてジミーが不法侵入罪で刑務所に収容されたことを知る。

マイアは町に出て、刑務所を偵察。

課題レポートを装ってロバーズ巡査部長に刑務所内を案内してもらい、ジミーの監房も把握する。

マイアはクツオフ老人がまた6日間ほど家を空ける時に、書き置きを残して刑務所に行く。

そしてロバーズを騙して射撃訓練場へ行き、靴下で作った砂袋でロバーズを気絶させ銃を奪ってジミーを救出する。

ジミーの回収用信号機は軍に接收されていると聞き、途中でホルストの厩舎から馬を取り戻し地図を取りにクツォフ老人の家に戻ると老人は戻っていた。

そこへ警察が来て、クツォフを反救済主義者だと言って逮捕・連行しようとするが、抵抗するクツォフを警官は殴り、マイア悲鳴をあげる。

警官がマイアに銃を向けたところにジミーが飛び込んで警官を射殺する。

マイアとジミーは軍施設に向かう。

衛兵が寝静まるのを待って柵乗り越えて、当直の士官に銃とナイフを突き付けて、ジミーの持ち物、信号のありかを吐かせる。

なんとか見つけるが、マイアに気絶されたはずの士官が起き上がって衛兵に合図をしたため、施設は大騒ぎになる。

マイアとジミーは軍施設に分捕られた偵察艇を火薬庫の爆弾で破壊して攪乱して施設を後にする。

そして信号を送って迎いの偵察艇に乗り込むことが出来た。

しかし回収信号を送って来ているのは29人中12人にしか過ぎなかった。

17人は殺されたか捕まったか、なんらかの事情で信号を発信出来なかった。

リギーらが銃撃を受けて偵察艇に乗り込めないので、みんなで援護射撃をしてなんとか回収。

宇宙船に戻って親たちに出迎えられる。

そして惑星ティンテラの件は、評議会にかけられる。

マイアは自由産児主義を目撃し、ジャックはローゼルを奴隷扱いしていることを話し、ジミーは自分たちに対抗するために偵察艇が略奪されていたことを述べた。

そして、マイルズ、パースソン、タブマン、フィンドレイらを中心に惑星ティンテラを封じ込めるか再教育するか、あるいは破壊してしまうかという論議がなされ、全船集会の投票により破壊が決定する。

マイアもジミーも反対だった。

しかし父マイルズはジョージに惑星ティンテラ人口数百万人の破壊を命じた。

マイアは母が家に戻って来ることも知ったが、家を出る決意をする。

第三層でひとりであるマイアをジミーが会いに来る。

「ムベル先生に会いに行こうよ」

「アットは生きていたかしら」

「くよくよしてしまう」

「私たちで変えて行こう。長くかかると自分たちどうなってしまうか...」

<メモ>

宇宙船のキャパの限界。

「子供を持ちたいと思う人にみさかいなく許していたら、いったいどうなるだろうか。」

カントの命題

「われわれはすべてに人間を目的ならびに手段として扱うべきだ」

フィリピンKボック『現代文化人類学入門』。

「通過儀礼はいずれの場合に、とりおこなわれる儀式は、地位の変化を劇に仕立てて表現する3つの、順序を踏んだ段階を含んでいる。

ヴァン・ジュネップによる各段階。

分離、移行、統合、と呼んだ。

個人は元の位置から分離され、過渡的状态を通り抜けて、社会に再統合される。

地位も変わって行く。

新入りは、自分の家族や馴染み深い環境から引き離されて、へとへとになるほどの、集中的な、かつ往往にして屈辱的な経験に耐えることを強いられるが、この間、彼らは勇気と気力を示さねばならない。

そしてふつう、彼らは新しい地位にふさわしい行動の仕方ばかりでなく、新しい(秘教的な)語彙と神話をも学ぶ。

成年式を成功裡に完了した暁には新しい種類の人間として社会に復帰するわけではない。」

コードウェイナー・スミス『ノーストリリア』。

ハインラインは1959年発表の『宇宙の戦士』以降、変わり始めた。

ハインライン『ポディの宇宙旅行』。